

第401回市（入札日 2016年12月16日）

— 最盛期に突入。ナラ・セン・マカバを中心に高値 —

秋の台風による造材作業のずれこみもあって、出品材積は前年同月比で3割近い減となりましたが、前月比では1.7倍と、最盛期に入ったことが感じられる市でした。

前月から突板材や楽器材などとして活発な買いがみられたメジロカバ・イタヤに加え、ウイスキー樽材の買い付けが始まったとされるナラや、良材が多かったセン・マカバなど、幅広い樹種に買いが入り、立米20万円を超える玉も時折みられました。

元落ち率は1.2%と極めて低水準で、出品量が少ないなか、必要な玉をなるべく早いうちに確保しておこうとする買方各者の意気込みがうかがえました。

先月の短信で、近年では「玉確保の時期が早まり、2月市で手じまいする買い方さんも増えている」としましたが、需要には特に悪い材料がないなかで供給が滞っているため、例年より手じまいの時期が遅くまでずれ込む可能性もありそうです。

次回（第402回、1月27日）は、マカバなどの優良材が多く含まれる東大演習林材も出品されるとのことです。

○出品数量

官材・単 槿	265立米	354槿	809本
官材・ロット	87立米	20槿	440本
民材・単 槿	1,597立米	1,960槿	4,622本
民材・ロット	38立米	4槿	285本
計	1,988立米	2,338槿	5,155本

（樹種別）タモ386立米・971本、マカバ13立米・19本、セン120立米・284本、ナラ498立米・1,584本、ニレ82立米・126本、キハダ7立米・24本、クルミ21立米・75本、アサダ12立米・33本、ホホ9立米・31本、エンジュ8立米・66本、カツラ56立米・115本、ザツカバ76立米・254本、シュリ7立米・29本、イタヤ68立米・259本、サクラ7立米・21本、シナ72立米・261本、メジロカバ449立米・1,767本、ウォールナット33立米・23本、アオダモ4立米・17本、その他広葉樹50立米・133本、イチイ4.1立米・59本、アカエゾマツ1.0立米・2本、クロエゾマツ2.1立米・1本、カラマツ1.9立米・2本

○販売数量 1,964立米（元落ち率1.2%）

○販売金額 1億181万円（1立米あたり平均51,845円）

○主要樹種の平均単価（1立米あたり）

タモ	47,431円	キハダ	22,835円
マカバ	240,247円	カツラ	35,365円
セン	68,838円	ザツカバ	31,505円
ナラ	53,376円	メジロ	55,272円
ニレ	35,168円	ロット	27,895円

○高値（1立米あたり、外材・イチイ・エンジュは除く。）

- ①710,000円（マカバ 9.0m、46cm、1本、2.117立米）
- ②430,000円（セン 5.6m、50cm、1本、1.400立米）
- ③427,000円（マカバ 3.0m、42cm、1本、0.529立米）

※落札結果は聞き取りによるため、漏れや誤りがある場合があります。（担当：嶋瀬）

（2016年12月26日作成）